

会員紹介
その4

自立する環境NPOを目指す おきなわ環境クラブ

任意団体からNPOへ

OEC（おきなわ環境クラブ）は一九九九年四月任意団体として設立された。設立当初から、水辺緑化をテーマに、水辺の植物、特にマングローブなど身近な題材を取り上げ、観察会や講演会、ワークショップなど、共通の体験をとおして子どもと大人がともに学ぶ活動を継続してきた。年々それらの回数が増え、活動の範囲と社会的な責任が拡大してきたことで二〇〇二年三月NPO法人格を取得するに至った。

NPO法人として

OECをNPO法人化するにあたって、目指す姿を考えて導き出した目標は「自立する環境NPO」であった。自立するNPOとは、定款にうたったミッションを実現する主体として、しっかりした財源基盤に立って、事業を継続的に展開できる組織・団体である。



JICA集団コース『エコツアーリズム企画・運営』研修風景



親子で楽しむ干潟の観察会

顧客に対して継続的に物やサービスを提供していくためには、よく「人、物、金、情報」などと言われる経営（運営・活動）に必要な資源の確保が不可欠である。なかでも、資金と情報が最も重要だと考えている。資金調達では、「貧すれば鈍す」の状況にならないよう、毎年、一定額以上の自己資金を内部に留保するよう努めてきている。情報については、人材や団体、物（スポーツ、教材）の資源情報はデータベースへ登録し、活動で得た知見・技術については実施要領やマニュアル、報告書、ガイドブックとして出版するなどしてそれらの留保に努めている。

自立するNPOを 目指して

OECは自立するステップとして、法人格を得て半年後に役員で資金を出し合っ常勤職員一人を雇い、県からの委託事業を受け『沖縄エコツアーガイド養成研

サガリバナのライトアップ



毎年、梅雨明けの六月下旬から七月にかけてサガリバナ（サワフジ）の開花が新聞やテレビを賑わす様になった。夏の夜、芳香を漂わせて花開く同種は、マングローブの後背地に生える中高木で、むかし沖縄のどの川にも見られたと思う。OECは、足元にあるサガリバナを用いて水辺の緑化や鉢植えの講習会、講演・観察会（ワークショップ）、開花をライトアップするハリントニア・フェスティバルなど、地域の資源を生かして楽しみながら自然と環境に理解が深まるプログラムを数多く開催してきた。

修」を三年（二十名/回）実施した。さらに平成十五年度、那覇市国場に事務所を開設、ガイド養成と並行して県の地域環境センター管理業務、那覇市のモノレール周辺エコツアー資源調査、そして国際協力機構（JICA）沖縄国際センターの集団コース研修など、公的機関からの委託事業を実施することで、安定した収入の確保とOEC事務局の人材育成に努めてきた。現在OECは、会員約七十名を抱え、理事六名、監事一名の役員、常勤四名、非常勤三名の事務局で運営されている。OECの活動は、環境教育を

基軸に、地域の自然や環境、歴史・文化の資源を生かした人材育成、学習・体験プログラムやエコツアーの企画実践、教材の開発と頒布、資源データベースの構築などがある。県や国際協力機構（JICA）などからの受託ならびに助成金等を活用しながらの自主企画によって事業を展開している。

OECの課題

今、沖縄においては、外来種による生態系の攪乱や水の汚濁、ごみの散乱などなど、人為的な改変によって自然と環境が脅かされている。それらの原因が、私たち一人一人

（おきなわ環境クラブ
事務局長 下地邦輝）